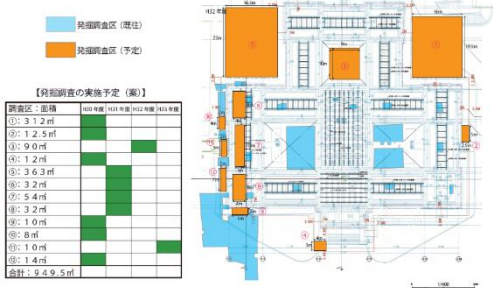


大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】								
(4 館共通)								
1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (東京国立博物館)								
1) 本館については収蔵・展示施設の改修と拡充に関する基本計画を引き続き策定する。								
担当部課	総務部環境整備課			事業責任者	課長 若林賢一			
【実績・成果】								
(4 館共通)								
1) 建物の長寿命化を見据えて館内設備機器(建物附属)の現状の調査、検証を平成29年9月に完了し、メンテナンスサイクルを開始するのに必要な更新費用の予算要求を随時行う一方で、より緊急度の高い機器更新として送風機等空調機器、発電機用蓄電池や変電設備の保護継電器等を館内予算により実施した。 (東京国立博物館)								
2) 本館収蔵環境改善準備のための管理棟(仮称)建設を着工し、本館改修整備は本館保存活用計画策定の準備作業を進めながら予算規模に応じて実施する本館リニューアル計画について、環境整備委員会の審議を経て新規にワーキンググループを発足することとした。また、今後将来に渡っての予算措置状況とメンテナンスサイクルの進捗に合致した設備機器の整備計画を策定した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年 変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 設備機器のメンテナンスサイクル確立に向け、計画的な予算要求と、一部先行して設備機器の更新を行うことができた。課題は、予算規模が膨大なため、予算の確保ができなければメンテナンスサイクルは成立しないリスクがある。 本館については、最終目的の収蔵庫環境の改善を見込んだ改修に向けて収蔵品を仮に収めるための、管理棟(仮称)建設を着工することができた。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (東京国立博物館) 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 本館の収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に際して、管理棟(仮称)建設を着工することにより、収蔵環境について改善準備を進めることができた。						

大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (京都国立博物館) 1) 仮設収蔵庫(東収蔵庫)の減築工事を引き続き行う。 2) 明治古都館(本館)の免震補強ほかの改修に向けた準備として、引き続き基本計画の策定を行う。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 数馬厚人			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、送水ポンプの設備点検に関する調査打合せ、構内 LAN・電気経路に関する調査打合せ等を行った。 (京都国立博物館) 1) 仮設収蔵庫(東収蔵庫)の改修工事として、28年度の内部収棚移設工事などの準備工事の施行に引き続き、29年度は本体建物(東収蔵庫)の減築工事等を開始した。 2) 明治古都館の埋蔵文化財の工事前発掘範囲を確定した。								
【補足事項】								
								
東収蔵庫改修工事				埋蔵文化財発掘調査予定範囲				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 東収蔵庫改修工事(減築、軸部補強等工事)を実施した。内外装改修等工事を継続して30年度に行う。 本館改修基本計画の工事内容に基づき京都市との協議の結果、埋蔵文化財の発掘範囲を確定させた。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (京都国立博物館) 京都国立博物館本館(明治古都館)の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルについては、28年度に引き続き32年度に向けて検討を続けている。 京都国立博物館本館(明治古都館)の改修については、建造物の保存と活用に配慮した基本計画の工事内容に基づき、前段となる埋蔵文化財調査を実施するための範囲を確定させた。						

大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (奈良国立博物館) 1) 構内バリアフリー及びエントランス拡張整備に向けた検討を引き続き行う。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 室溪浩			
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・各種設備に関するメンテナンスサイクル更新計画表を作成した。 ・熱源設備の更新を実施した。 (奈良国立博物館) 1) 構内バリアフリー及びエントランス拡張整備計画の検討を行った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・各種設備の状況調査及び各資料に基づきメンテナンスサイクルの更新計画表を作成した。 ・展示室等の適正な温度管理のため、東新館熱源の一つである吸収式冷温水器の分解整備（一部更新）を行った。 (奈良国立博物館) 1) エントランス拡張整備計画の図面上の見直しをおこなった。 構内舗装のピンコロ石の凸凹解消方法の再確認及び構内側溝蓋改修等バリアフリー対策について検討を行った。								
								
一部更新した吸収式冷温水器								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当初の予定通り、28年度に行った現状調査並びにメーカーへのヒアリング資料に基づきメンテナンスサイクル更新計画を策定した。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (奈良国立博物館) 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度は当初の予定通りメンテナンスサイクル更新計画を策定した。今後は、メンテナンスサイクル更新計画に基づき老朽化した設備機器の計画的な更新を進めるとともに継続的に更新計画表の見直しを行う必要がある。						

大項目	I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (九州国立博物館) 1) 開館から11年が経過し、施設設備備品に老朽化がみられるため展示施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行う。また、平成30年度の特別展示室メンテナンスを見据えて、10年整備計画に則った準備を進める。								
担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課			事業責任者	課長 河野一隆 課長(兼学芸部長) 小泉恵英 課長 菅原秀倫 課長 田中正一			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行った。 (九州国立博物館) 1) ・特別展示室第3室に設置されている展示ケースのパッキンの交換を行った。 ・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い空調設備(自動制御装置、インバータ、冷水温水送水ポンプ)の一部改修工事を行った。 ・施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、計画作成の見直しの検討を行った。								
【補足事項】 展示ケース開口部のパッキンは経年劣化により隙間が生じていた。また壁とガラスの境にあるコーキングは経年劣化により柔軟性が失われていた。今回の交換作業により見栄えだけでなく、温湿度管理上も改善が図られた。交換作業により既存のガラス飛散防止フィルム除去・クリーニングを行った。改めて飛散防止効果を有する低反射フィルムを施工し、これによりガラス面への映り込みがわずかとなり、展示効果が大きく高められた。特別展示室第1室、第2室については、30年度に計画的に実施する予定である。								
					一部改修した空調設備			
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 空調設備の一部改修工事や、3階特別展示室第3室の展示ケースの改修計画を行うなど、施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行った。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (九州国立博物館) 開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進するため、計画策定の検討を行った。30年度の特別展示室メンテナンスに先がけて一部で施工を進めることができた。また、10年整備計画に則り、各所の準備を進めていきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集							
【年度計画】 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・購入件数 12件 内訳：絵画 2件、書跡 2件、彫刻2件、漆工2件、染織1件、考古1件、東洋陶磁2件 ・決算額 252,720,000円 29年度は、絵画2件「正月飾り物図」、「日課観音図」、書跡2件「書状」、「仮名消息(延喜式紙背)」、彫刻2件 重要文化財「能面 三番叟(黒色尉)」、重要文化財「能面 伝山姥」、漆工2件「須磨浦蒔絵沈箱」、「色紙短冊蒔絵歌書箱」、染織1件「小袖 白綸子地梅樹竹垣模様」、考古1件「変形五獣鏡」、東洋陶磁2件「三彩刻花文鉢」、「青花人物文長方合子」の計12件を購入した。								
【補足事項】 ・書跡購入品の「仮名消息(延喜式紙背)」は、当館所蔵の国宝「延喜式」のつれであり、当館が所蔵するにふさわしいものである。 ・彫刻購入品の重要文化財「能面 三番叟(黒色尉)」及び重要文化財「能面 伝山姥」は、制作が南北朝時代に遡ると見られ、能楽初期の遺品として大変貴重である。特に、「能面 伝山姥」は、能面を代表する存在として能楽関係者、研究者から高く評価されている面であり、展示活用や研究のより一層の充実が強く期待される。 ・東洋陶磁購入品の「青花人物文長方合子」は、中国・明時代の、わずか6年間の隆慶年間に制作された景德鎮官窯器として極めて貴重であり、同時期に焼造された青花の確かな作例として重要な作品である。								
					[購入品] 重要文化財 能面 伝山姥			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	25	26	27	28
収蔵品件数		117,460件	-	-	115,653	116,268	116,932	117,190
うち国宝		89件	-	-	87	87	87	88
うち重要文化財		643件	-	-	633	634	634	636
収集件数		268件	-	-	1,291	615	664	199
うち購入件数		12件	-	-	5	9	16	11
うち寄贈件数		84件	-	-	471	100	148	44
うち編入件数		172件	-	-	815	5,069	500	144
文化財購入費		252,720千円	-	-	123,950	139,686	225,880	662,350
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 能楽の宗家に伝来する重要文化財「能面 三番叟(黒色尉)」及び重要文化財「能面 伝山姥」をはじめ、収蔵する機会が稀である貴重な作品を多く購入することができた。また、年度計画に挙げた分野から、アジア地域で制作された作品を含め、バランスよく購入することができた。					
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 重要文化財の能面2面や「青花人物文長方合子」など日本を中心に広くアジア諸地域等にわたる作品を収集し、中期計画の成果を上げることができた。次年度も引き続き情報収集に努め、適時適切な収集を図る。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集							
【年度計画】 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部		事業責任者		列品管理室長 宮川禎一			
【実績・成果】 (京都国立博物館) ・購入件数12件 内訳：絵画3件、陶磁9件 ・決算額 291,808,000円 29年度は、絵画3件 重要文化財「洞庭赤壁図巻 池大雅筆」「花鳥図 如寄筆」「花鳥図 小島亮仙筆」、陶磁9件「鼠志野草文鉢」「色絵獅子山水文八角水指 奥田穎川作」「灰釉瓶子 美濃須衛窯」「有来新兵衛屋敷跡出土茶陶」「灰釉壺 渥美窯」「須恵器長頸壺 猿投窯」「黄釉楽舞人俑」「青磁貼花龍文盤 龍泉窯」「須恵器甕 猿投窯」を購入した。								
【補足事項】 29年度購入品の 重要文化財「洞庭赤壁図巻 池大雅筆」は、30年春の特別展「池大雅」にて公開予定である。								
								
重要文化財「洞庭赤壁図巻 池大雅筆」(部分)								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
収蔵品件数	7,977件	-	-		6,721	7,109	7,532	7,794
うち国宝	29件	-	-		27	27	28	28
うち重要文化財	202件	-	-		179	180	183	198
収集件数	184件	-	-		13	388	423	265
うち購入件数	12件	-	-		0	9	18	14
うち寄贈件数	172件	-	-		13	379	405	251
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	291,808千円	-	-		0	227,452	797,790	130,088
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 30年度特別展で公開予定の重要文化財1件を含む、当館の展示・研究に寄与する作品12件を購入することができた。直ちに活用が見込まれる作品を購入できたことは、適時性の面でも評価できる。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度も、展示・研究に役立てることが出来る、京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等について順調に購入することができた。 今後も展示・研究に寄与する作品の購入を順次行っていく予定である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集							
【年度計画】 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、工芸品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部		事業責任者	部長 内藤栄				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 29年度に購入した文化財は以下の6件である。 ・絹本着色阿弥陀聖衆来迎図 1幅 ・木造地藏菩薩立像 1軀 ・木造毘沙門天立像 1軀 ・木造役行者倚像 1軀 ・絹本着色両界曼荼羅 2幅 ・絹本着色聖徳太子絵伝 2幅								
【補足事項】 購入文化財のうち木造地藏菩薩立像は、13世紀前半の慶派または奈良を拠点に活躍した善派の力量ある仏師の作であり、像高81.1cm、髪際高で約二尺五寸を測る地藏菩薩像の優品。腰を左方に強く捻る姿の地藏菩薩は類品が極めて少なく貴重であり、また制作当初の鮮やかな表面仕上げを各所に残す点でも価値が高い。								
								
				木造地藏菩薩立像				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
収蔵品件数	1,893件	－	－		1,862	1,877	1,883	1,886
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	113件	－	－		111	111	112	112
収集件数	7件	－	－		28	15	6	3
うち購入件数	6件	－	－		3	15	4	2
うち寄贈件数	1件	－	－		25	0	2	1
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	550,000 千円	－	－		40,350	261,960	140,400	5,040
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 本年度も仏教美術に重点をおいた適切な収集を実施した。購入は絵画3件と彫刻3件で、特別措置された予算により、学術的価値が高く展示効果もある文化財を数多く館蔵品に加えることができた。件数は少ないが、貴重かつ質の高い作品を購入できているため、A評価とする。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 仏教美術を中心とした文化財を収集することができている。28年度は書跡、29年度は彫刻・絵画と、分野のバランスのとれた体系的な収蔵品の蓄積ができている。30年度以降、さらに多分野の文化財収集に取り組む。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集							
【年度計画】 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 河野一隆			
【実績・成果】 (九州国立博物館) ・購入件数34件。 内訳：絵画10件、書跡6件、金工3件、陶磁1件、考古10件、歴史資料4件。 ・決算額 640,636,000円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集した。作品として、重要美術品の「輪宝」や「五鈷杵」、同じく重要美術品である「朝鮮国告身関係文書」などの優れた文化財を、あわせて34件購入した。								
【補足事項】 ・絵画分野では10件を購入した。曾我蕭白筆「許由巢父図屏風」、呉春筆「桃李園夜宴・西園題石図屏風」は、関西を中心に活躍した画家の優品で、当館では収蔵していなかった作家の作品であり、多彩な江戸絵画の展示に活用できる。「南蛮屏風」も、開館以来収集を続けている作品で、コレクションの充実をはかることができた。 ・書跡分野では6件を購入した。「道号偈 松山」は、北条氏が招聘し、鎌倉・建長寺や建仁寺、南禅寺の住持をつとめた、元時代の禅僧・清拙正澄(1274-1339)の基準となる墨蹟であり、中世の日中交流を示す作品として活用できる。 ・金工分野では「輪宝」「五鈷杵」(いずれも重要美術品)等の3件を購入した。これらは、鎌倉時代に遡る密教法具の希少な作例である。特に、「五鈷杵」は空海請来法具の姿をよく伝える屈指の名品である。いずれも中世の密教工芸の魅力を存分に発するもので展示効果も高い。 ・考古分野では10件を購入した。「車輪石」は奄美・琉球諸島の弥生時代貝輪を石で写した古墳時代の腕輪型石製品である。「銅製瓔珞付経筒」は平安時代の天永元年(1110)の年記を持ち、銘にある僧観尊は観世音寺と密接な関係があり、この作品は大宰府における信仰の広がりを示すものとしての活用が見込まれる。 ・歴史資料分野では4件を購入した。重要美術品「朝鮮国告身関係文書」は、16世紀に朝鮮王朝が日本人に宛てて発給した公文書であり、非常に希少性が高い。また文禄・慶長の役の研究史上でも重要で、『朝鮮王朝実録』の記述を裏付ける史料としても大変重要である。 ・いずれも日本と大陸の文化交流を物語る作例、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。								
								
重要美術品 五鈷杵			銅製瓔珞付経筒			重要美術品 朝鮮国告身関係文書		
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
収蔵品件数	878件	-	-		493	512	525	583
うち国宝	3件	-	-		3	3	3	3
うち重要文化財	39件	-	-		29	29	34	37
収集件数	295件	-	-		19	19	13	58
うち購入件数	34件	-	-		15	14	5	36
うち寄贈件数	261件	-	-		4	5	8	22
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	640,636千円	-	-		727,528	727,228	609,288	640,412
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 重要美術品「朝鮮国告身関係文書」など当館として収集すべき作品と、曾我蕭白筆「許由巢父図屏風」、重要美術品「輪宝」など時代の美意識を示す作品とを、バランスよく収集した。所蔵者との信頼関係に支えられ、例年同様の購入件数を達成できた。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画2年目の29年度も重要美術品「朝鮮国告身関係文書」など文化交流を端的に示す作品を、バランスよく収集することができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等								
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。									
担当部課	学芸研究部列品管理課				事業責任者	課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (4館共通) 寄贈 ・新規寄贈品件数 84件 内訳：絵画 4件、書跡 25件、陶磁 1件、染織 1件、考古 15件、歴史資料 1件、東洋絵画 1件、東洋書跡 2件、東洋陶磁 2件、東洋考古 11件、東洋民族 21件 寄託 ・新規寄託品件数 71件 内訳：絵画 2件、陶磁 1件、考古 1件、東洋絵画 15件、東洋金工 1件、東洋陶磁 31件、東洋染織 3件、東洋考古 4件、黒田記念館収蔵品 13件 ・寄託品は新規に71件を受け入れ、返却37件のうち10件の寄贈を受理し、3件を登録美術品として受け入れた。									
【補足事項】 寄贈 ・作品の寄贈については22名の所蔵者から、84件の文化財を受け入れた。 ・「渡唐天神図」は、中世の禅僧の間に流行した渡唐天神図の作例であるが、いずれも賛や年記から制作年代がほぼ明らかであり貴重である。 ・北海道出土の石器は、北海道における後期旧石器時代から縄文時代における石器の典型例であり、石器の製作工程を示す好例である。また、旧石器時代の資料が少ない収蔵品の不足部分を補う作品であり、展示活用が期待される。 ・重要文化財「五彩金欄手瓢形大瓶」は、文様の精緻さの点において国内の金欄手の優品のなかでも群を抜いた秀作である。 寄託 ・作品の寄託については1機関9個人から、71件の文化財を新規に受け入れた。 ・寄託品のうち、重要文化財は「送海東上人帰国図軸」など、絵画2件、考古1件、東洋絵画3件である。									
[寄贈品] 重要文化財 五彩金欄手瓢形大瓶									
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28	
新規寄贈品件数	84件	－	－		471	100	148	44	
寄託品件数	3,109件	－	－		2,519	3,064	3,072	3,075	
うち新規寄託品件数	71件	－	－		20	604	31	37	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 重要文化財の寄贈2件や新規寄託6件を含め、寄贈、寄託ともに、展示を充実させることができる作品を収集することができた。寄託品件数も順調に推移している。また、登録美術品についても、寄託品から3件を受け入れた。							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき寄贈・寄託品の受け入れをバランスよく行い、今後の展示や研究に活用できる内容となった。次年度も、既存の寄託品件数を維持するなど、寄託者との信頼関係を維持し、継続的な寄託の推進に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 (2) 有形文化財の収集等 (3) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4 館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (4 館共通) ・寄贈 新規寄贈品件数172件 内訳：絵画6件、陶磁101件、金工51件、染織6件、漆工8件 ・寄託 新規寄託品件数79件 内訳：「山水図屏風 池大雅筆」等								
【補足事項】 ・寄贈は172件で、寄贈者は9名である。 ・寄贈のうち、165件については、大阪府貝塚市で江戸時代から続いた商家の廣海家から、28年度に引き続き寄贈されたものである。30年2月3日～3月18日において、これまでの寄贈作品を披露する特別企画「貝塚廣海家コレクション 受贈記念 豪商の蔵-美しい暮らしの遺産-」を平成知新館において開催した。								
 								
特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵-美しい暮らしの遺産-」展示品一例								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
新規寄贈品件数	172件	-	-	年 変 化	13	379	405	251
寄託品件数	6,235件	-	-		5,892	6,001	6,112	6,189
うち新規寄託品件数	79件	-	-		70	162	232	227
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 当館の平常展示に寄与する作品、寄贈172件を受け入れることが出来た。特に廣海家からの寄贈は長年の調査研究成果【処理番号1411B5参照】と所蔵者との信頼関係に基づくものであり、通算で1,000件を超える大型寄贈となった。商家の江戸から昭和にかけての一大コレクションのほとんどを散逸させることなく受入れることが出来たことは著しい成果であった。また、これを29年度中に特別企画「廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵」を開催し、一般に公開することも出来た。本展の閉幕を見届けるように寄贈者がなくなられたことも考え合わせると、適時性の面でも今しかない大型寄贈であったと言える。						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、寄贈、寄託の受入を積極的に行い、収蔵品を順調に充実させることができた。展示計画において有用な作品を受け入れることができ、今後の展示の充実が一層期待できる。 既存の寄託品についても積極的に展示し活用することができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 内藤 栄			
【実績・成果】 (4館共通) ・寄贈 銅造如来坐像 1軀 個人 ・寄託 新規に寄託を受け入れた文化財は12件であった。主な寄託品は以下の通り。 重要文化財 羅太鼓縁 1基 唐招提寺 重要文化財 十無尽院舍利講式 1巻 高山寺 木造不動明王立像 1軀 正智院 木造阿弥陀如来坐像 1軀 伏見自治会								
【補足事項】 寄贈を受けた銅造如来坐像は、中国に仏教が伝来した初期の仏像としてきわめて貴重な作品である。当館の現在の所蔵品・寄託品には、本像のような中国・五胡十六国の時代に遡る仏像はなく、今回の寄贈により、収蔵品の充実及び当館仏像館等での展示活用が期待される。								
								
銅造如来坐像								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
新規寄贈品件数	1件	-	-		25	0	2	1
寄託品件数	1,962件	-	-		1,994	1,984	1,956	1,958
うち新規寄託品件数	12件	-	-		49	7	7	37
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度はきわめて貴重な作品の寄贈があり、また、新規寄託品の件数については、数が特別多かった28年度に比べれば数量的には減少しているものの、一定量の寄託品を確保しており、いずれも質が高くすぐに展示活用可能な作品を集めることができた。						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 質の高い寄託品および寄贈品を受け入れることができ、中期計画の推進は順調である。今後も社寺や個人コレクターとの信頼関係、及び行政機関と連携をはかりながら、寄贈・寄託作品の増加、並びに継続的寄託に努めることにしたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等								
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。									
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 河野一隆				
【実績・成果】 (4館共通) 寄贈 ・故坂本五郎氏のコレクション250件の大型寄贈があった。内訳:絵画7件、書跡12件、彫刻1件、金工202件、漆工4件、陶磁21件、考古3件。重要文化財である「日新除魔図 葛飾北斎筆」及び「色鍋島松竹梅文瓶子」各1件や「古今和歌集 伝藤原公任筆」などが特筆される。「日新除魔図」は葛飾北斎の晩年を代表する重要作品であり、鍋島瓶子は将軍家等への献上品として最高水準の磁器を生産した鍋島窯の優品で、類例の少ない作品である。また芦屋釜を含む茶の湯釜関連資料202件は、我が国の代表的な釜の製作地の作品をほぼ網羅しており、技法や器形、意匠の特徴を通観することのできる貴重な作品群である。 ・坂本五郎コレクション以外では11件の新規寄贈があった。内訳:書跡10件、歴史資料1件。重要美術品「和漢朗詠集断簡 戊辰切」「故宮附故宅 藤原定信筆」は仮名の書風が個性的かつ多彩に展開する時期の重要な作例の一つで、筆者の明らかな古筆切の1つとしても貴重である。									
寄託 ・45件の新規寄託があった。内訳:絵画1件、刀剣4件、陶磁19件、漆工7件、考古13件、歴史資料1件。刀剣では「太刀 銘真忠」は千手院派に属する刀工で、貴重な作例であると同時に、旧蔵者は国際連盟に首席全権として出席して脱退を宣言した松岡洋右であることが注目される。陶磁は唐津・伊万里などの九州陶磁に加え、乾山窯(京焼)や中国陶磁などを含み、バリエーションに富む。考古は奈良県山村廃寺出土軒丸瓦や、後漢時代の「加彩鎮墓獣」である。歴史資料は法華経版木で、印刷文化の広がりを示すものとして、文化交流展示での活用が期待される。									
【補足事項】 30年度に坂本五郎コレクションの受贈を記念した特集展示を文化交流展示室で開催予定。その後は文化交流展示室第1室において、陶磁を中心とした同コレクションを常設で紹介し、寄贈者を顕彰する。									
									
重要文化財「日新除魔図 葛飾北斎筆」 卯正月七・八・九日			重要美術品「和漢朗詠集断簡 戊辰切」			太刀 銘真忠			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
新規寄贈品件数		261件	-	-	年 変 化	4	5	8	22
寄託品件数		934件	-	-		1,081	795	885	893
うち新規寄託品件数		45件	-	-		15	12	97	44
【年度計画に対する総合評価】 評価: S			【判定根拠、課題と対応】 文化交流を基軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。とくに坂本五郎コレクションは、寄贈者である坂本家と当館との繋がりの中で、信頼関係を築き上げてきた賜物であり、その実績が今回の大型寄贈につながったものである。開館以来、質量共に最も充実した内容を誇る優品揃いであり、当館の収蔵品の中でも今後の柱となるべき画期的なものと位置付けられる。						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。									
【中期計画に対する評価】 評価: S			【判定根拠、課題と対応】 文化交流を基軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。収蔵品の増加は、寄託者・寄贈者との信頼関係に基づくものであるが、とくに坂本五郎コレクションについては、30年度に特集展示を企画しており、積極的な活用を明確に打ち出す姿勢が体现できている。このように当館への信頼関係の高さを今後も維持しつつ、中期計画に則ったプレゼンスの向上を今後も図っていきたい。						

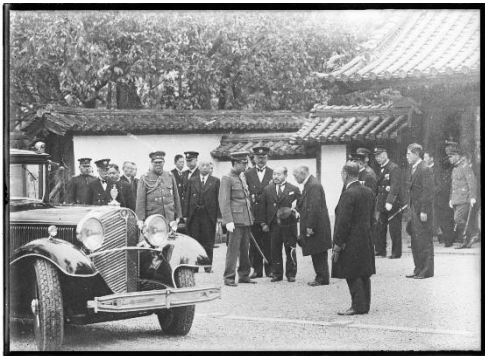
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 1/2								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 (東京国立博物館) ア 収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行う。 イ 古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。									
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷 秀明				
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行った。 (東京国立博物館) ア 収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行った。 イ 新規収蔵庫棟の建設に伴う資料館工事のため、約100,000点のガラス乾板、約2,500点の写真資料、約7,000点の館史資料、約2,200件の印譜、約1,000件の漢籍について新規に収蔵棚を設置し、作品の移動を行った。									
【補足事項】 (4館共通) ア 本館改修工事に伴って列品を新規収蔵庫へ移動・収納するための基本仕様を検討した。 (東京国立博物館) ア 宮内省削除品170件について作品調査を行い、列品として編入した。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
収蔵施設の収容率		180%	－	－		－	－	－	180%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、順調に成果をあげている。本館の改修にともなって必要となる新規収蔵庫棟の建設のため、資料館の資料を移動した。また、宮内省削除品の列品への編入を行った。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。特に、収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を滞りなく進めることができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (東京国立博物館) ウ 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 エ 列品にかかる統計業務の精度を高め、効率化をはかるべく、列品台帳のデジタル・アーカイブ化と情報の利活用向上に向けたシステム導入に向けて取り組みを開始する。 オ 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。 カ ガラス乾板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 田良島哲 課長 救仁郷秀明					
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 (東京国立博物館) ウ 「列品管理プロトタイプデータベース」について、X線CTスキャン、3次元計測等の画像以外のデジタルデータの有無を登録する機能を実装した。また収蔵品データの外部への公開に向けた機能改善を行った。 エ 収蔵する美術品台帳について103,690件、松方コレクション台帳について4,139件のスキャンニングを行った。また、美術品台帳のスキャンニング画像から89,436件分のテキストデータ化を行った。25件の収蔵品データベースを統合し、収蔵品データ管理システムを導入した。 オ 収蔵する和古書・漢籍について19,002件、洋古書について7,970件のデジタル撮影を行った。 カ 未整理のブローニーフィルムのデジタル化に向けて、データ整備を実施した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	26,972件	24,471件	B		22,095	36,811	30,013	25,334
和古書・漢籍	19,002件	-	-		18,357	25,911	13,924	20,224
洋古書	7,970件	-	-		3,738	10,820	16,089	5,110
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 順調に成果をあげている。デジタル撮影した画像の登録、及び「列品管理プロトタイプデータベース」におけるデータの更新により、収蔵品に関するデータ整備を推進することができた。また、美術品台帳のスキャンニング画像からテキストデータ化を行うなど、年度計画どおりに事業を実施することができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。収蔵品データ管理システムを導入し、美術品台帳のテキストデータ化も進んでいる。また、収蔵品に関する画像及びデータベース上のデータ整備の推進により、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。和古書・洋古書・漢籍についても前中期目標の期間の実績以上とすることができた。今後もデータ整備を推進して博物館における情報公開を充実させたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信														
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2														
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。															
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 宮川禎一										
【実績・成果】 (4館共通) ア 29年度は、28年度に作成した試作棚を考古収蔵庫に設置し、収蔵スペースの確保の効果検証を開始した。検証の結果、考古収蔵庫には有効ではあるものの、材質・形状等の異なる他分野に同様の棚の設置をすることは必ずしも効果的ではないことが判明した。そのため、各分野に応じた適切な収蔵環境構築の検討を続け、29年度は彫刻収蔵庫の改善を実施し、彫刻作品移動用のパレットを13枚作成した。これにより、移動が困難な彫刻作品を収蔵庫内で効率よく収蔵することが出来るようになり、収蔵スペースの確保に繋がった。 イ 毎年度2回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。															
【補足事項】   作成した彫刻作品移動用パレット															
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28							
収蔵施設の収容率	100%	-	-		-	-	-	-							
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 28年度に作成した試作棚を考古収蔵庫に設置し、効果を検証するとともに、他分野収蔵庫の棚設置の検討を行った。 29年度は彫刻収蔵庫において、作品移動用のパレットを製作することで、収蔵スペースの確保を達成し、順調に施設設備の充実と改善を実施している。 寄託品の所在確認作業も予定通り2回実施することが出来た。													
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)															
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度も環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。また、収蔵スペース確保のために、外注で彫刻作品移動用パレットを製作し、収蔵庫内に効率よく収蔵出来るようにした。今後も、各分野の収蔵状況に合わせた収蔵庫スペースの確保を検討していく。													

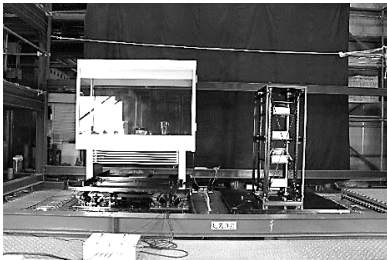
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施する。								
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 宮川禎一			
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を8,246件(カット)行った。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(29年度登録件数:21,291件) (京都国立博物館) ア ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、4,444件実施した。以下、内訳を記す。 *フィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、29年度は3,882枚デジタル化を行った。 *継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、29年度は154リール(53,579コマ)のデジタル化を行った。 *継続してガラス乾板のデジタル化を行っており、29年度は408枚デジタル化を行った。 ・購入、寄贈、寄託等に伴い、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し展示・調査研究の業務に役立てた								
【補足事項】 (4館共通) ウ ・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会「開館120周年記念特別展覧会 国宝」(10月3日～11月26日)、特別展「池大雅」(30年4月7日～5月20日)、特別展「京のかたな」(30年9月29日～11月25日)を対象として進めた。 ・特集展示について、ポスター・チラシ・リーフレット・図録作成のため、作品の撮影を行った。 ・松井宏次氏寄贈作品(松井コレクション)・貝塚廣海惣太郎家コレクション等を含めた収蔵品の撮影を継続して行った。 ・調査研究事業「近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」について、28年度に引き続いて金剛寺、及び29年度より観心寺を調査し、作品の撮影を行った。(処理番号1411B4参照) (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 28年度に引き続き、文化財情報システムの改修を行い、登録業務の改善を図った。 (京都国立博物館) ア ・外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、費用削減を図りながら、フィルムのデジタル化を促進した。 ・ガラス乾板は、京都造形芸術大学の協力の下、保存整理作業も続けて行っており、29年度は半紙から全紙の大判サイズを中心に状態調査を行い、スキャニング作業は28年度から引き続き四切サイズを行った。当館所有スキャナの読み取り範囲を超える大判サイズのガラス乾板については、デジタルカメラを用いて、撮影を行った。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。								
					撮影風景			
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	4,444件	3,816件	B		2,682	5,536	5,966	5,820
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 ガラス乾板の大型化によりスキャニングの手段を変更し、取り扱いに注意が必要となったことから28年度の件数は下回ったが、目標値を超えることができた。30年度も安全を確保しつつ、デジタル化に取り組む。新規撮影及び文化財システムへの登録は滞りなく実施することができ、文化財情報システムの改修についても継続して行い、データ整備を効率よく行うことができたことから、総合的にはとしては年度計画を達成できた。						
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 28年度より継続して、外注による8×10、5×7フィルムのデジタル化を進めており、フィルムのデジタル化を積極的に行うことで、管理に必要なデータを整備し、今中期計画期間の事業を順調に実施できた。今後も8×10、5×7フィルムを中心にデジタル化を進めていきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤栄					
【実績・成果】 (4館共通) ア ・収蔵庫(資料庫C)の収蔵品環境改善のため床(スノコ)及び扉の気密化の改修を行った。 ・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月1回(計12回)開催した。 イ 寄託者の異動(宗教法人代表役員の交代、名義人の死亡・相続など)への対応を優先しつつ、寄託品の所在と活用状況等の実態把握を行った。								
【補足事項】 (4館共通) ア 学芸部の書跡・絵画・彫刻・工芸・考古の各部門と施設担当部署で構成するワーキンググループを開催し、展示室、収蔵庫等施設の維持管理、充実・改善に向けた検討を行った。								
								
収蔵品環境改善のため床(スノコ)								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
収蔵施設の収容率	99%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 毎月1回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、施設の維持管理、充実・改善に向けた検討を行った。ワーキングにより問題等を確認し、改善に向けた検討を行うことで、施設設備の充実、改善ほか収蔵品保存環境の改善が図られた。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 寄託品の所在確認は順当に進められた。明治以来の寄託品の中には未だに登録情報の古いものがあるので、30年度以降も確認と現状対応の徹底を図るよう努めたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 イ 画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について引き続き検討する。 エ 収蔵品写真等の既存のカラーフィルムのデジタル化が28年度でほぼ完了したため、白黒フィルムのデジタル化を進める。								
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進した。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。 イ 画像データベースの個別データを追加更新した(4,683件)。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した(ガラス乾板のデジタル化件数は、13,698件)。 エ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(3,017件)。								
【補足事項】 28年度で館蔵のカラー原板のデジタル化が終了したことを受け、29年度はモノクロ原板とガラス乾板のデジタル化を実施した。中でも26年度より続けているガラス乾板のデジタル化と整備(クリーニング並びに保存箱への封入作業)に現在は注力している。ガラス乾板は博物館黎明期からの歴史資料として、また初期の文化財写真の実例として大変貴重なもので、昨今大きな注目を集めている。文書史料と付き合わせることで、これまで不明であった被写体(文化財、人物)についても少しずつ明らかになりつつある。今後とも、保存環境に配慮した整備と情報公開を見据えたデジタル化に向けて尽力していきたい。なお、ガラス乾板のデジタル化と整理の作業総数は、13,698件である。								
		ガラス乾板(愛新覚羅溥儀の視察 昭和10年(1935))						
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	3,017件	5,373件	D		7,615	5,154	3,875	3,081
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、例年既存カラーフィルムのデジタル化を数値としていたが、28年度で終了したため、29年度よりモノクロフィルムの実績を数値としてあげている。29年度のモノクロフィルムのデジタル化件数は例年以下に留まったが、作業の急がれたガラス乾板のデジタル化に注力し、13,698件もの成果を上げることができており、事業は順調に推進できている。						
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化については、カラーフィルムのデジタル化を数値としてあげていたが、これは28年度で完了しており、当初の目標は達成されている。現在はモノクロフィルムのデジタル化を進めており、実績としている。今後の指標としては、フィルムだけでなく、ガラス乾板のデジタル化やデジタル撮影の件数についても判定に加えていくことが相応しいと思われる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 河野一隆					
【実績・成果】 ア 29年度当初に当館へ搬入された坂本五郎コレクションは、250件と大規模な事案である。このような大型寄贈案件を一括で管理するため、3～5月中に列品の棚卸しをしつつ収納スペースを確保した。さらに、2度に分けて専門分野の研究者による点検を進め、新規に増設した収蔵棚に分野別に収納を進めた。 イ 今後、予測される大型寄贈案件に円滑に対応するため、収蔵庫内で最も広い面積を占める考古分野の収蔵品（列品、寄託品、借用品等）全件を対象として棚卸し作業を行い、再配置のための検討を行った。 年2回行う寄託品の継続手続きに合わせ、所在確認作業を、例年通り計画的に実施した。								
【補足事項】  坂本五郎コレクション収納状況								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
収蔵施設の収容率	85%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 坂本五郎コレクションという大型コレクションを保管・管理するため、新規に収蔵スペースの環境整備を行い、文化財の活用面でも適切に運用できるような、必要措置を行った。さらに今後も、このような大型寄贈などの、収蔵品の飛躍的な増加に速やかに対応すべく、収蔵品の所在確認作業を計画的に実施し、列品の活用推進をはかるための収蔵環境の整備のための検討を行った。30年度以降は、開館以来の列品の整理を進め、活用を推進するための基盤づくりを進めたい。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新収品について、寄贈者・寄託者の条件に柔軟に対応できるような形で保管・管理を行うために、必要な収蔵環境の整備を行った。今後も新収品は増加が見込まれるが、設備の充実・改善を図るための基盤を整備することができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信														
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 2/2														
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (九州国立博物館) ア 文化財情報(収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、画像データベース)の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。															
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 河野一隆										
【実績・成果】 (4館共通) ウ 専任撮影技師による4,873件(カット)の収蔵品・出品作品等の新規デジタル撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館) ア 列品・寄託品・借用品・画像などの各データベースを一元管理するシステムを継続的に運用し、より効率的な管理のためのシステムの改修・整備を進めた。															
【補足事項】 (4館共通)															
															
刀剣撮影風景			仏像撮影風景			29年度納入ストロボ									
(九州国立博物館) ア 29年度は業務システムを継続的に改善しつつ、基盤を整備し、これまで個々で管理されていたデジタルデータを統合し、業務システムで参照可能な状態にするための整備・登録作業を継続した。これによって、有形文化財に関する情報へのアクセシビリティを飛躍的に向上させることができた。引き続き、基盤強化と情報統合の両面の作業を進め、博物館活動を支援する体制の構築を目指す。															
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28							
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	(完了)	5,373件	-		-	-	-	-							
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新規のデジタル撮影を例年と同等に達成した。また「九州国立博物館文化財情報システム」の充実をはかり、基盤整備を拡充した。さらに、画像データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。													
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)															
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等の情報を集中的に管理するシステムの基盤整備を達成し、今後、展示や調査研究に活用していくための核となるシステムを拡充した。また、外部に文化財情報を発信し、博物館活動の活性化に供した。													

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行なう。 イ 収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 ウ 収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行なう。 エ 収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 オ 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 富坂賢				
【実績・成果】 (4館共通) ア 夏季に収蔵庫等68ヵ所を対象に生物生息調査および害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。新規収蔵品に対して燻蒸を1回実施した。改修した収蔵庫2ヵ所の除塵防黴処置を実施した。 イ 本格修理のための列品調査時、対症修理の実施時、列品貸与時の点検時に、合計1,146件の保存カルテを作成した。更にカルテ庫の改修とカルテの整備を実施した。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫の温湿度環境情報を収集し、それらの解析と評価から、収蔵環境の特性把握を行なった。 イ 収蔵庫及び展示室309ヵ所の温湿度を計測し、11ヵ所の空気汚染物質の濃度について計測を行い、データを蓄積した。 ウ 3次元免振装置の加振実験(6種の地震波を入力した際の応答の観察)を企業と共同で企画し、免震機能の性能評価を行なった。 エ 収蔵庫及び展示室251ヵ所の温湿度、11ヵ所の空気汚染物質に関する年次報告を整備した。 オ 文化財の貸借に伴う輸送中に生じた振動及び衝撃の計測を実施し、40の計測データを収集した。									
 3次元免振装置の加振実験									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、輸送中の振動に関する調査、情報収集、解析を実施することができた。また、その情報を蓄積することで、館内保存環境の現状把握と整備に役立てた。							
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積をするなど、28年度に引き続き順調に事業を実施できた。今後も、環境計測に用いる機器を増強しつつ、より高次元の成果が得られるよう、事業を継続していきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館) ア 平成知新館の長期的な保存環境の維持管理に関わる調査研究を行う。 イ 明治古都館・東収蔵庫の改修計画に役立てるため、各種環境データの収集などを行う。 ウ フィルム保管庫、資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫 (KICK) も含めた、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各種環境データの計測を継続する。								
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 宮川禎一 保存科学室長 降幡順子			
【実績・成果】 (4館共通) ア 館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、I P Mの徹底を図った。 イ 収蔵品の保存カルテを190件作成した。 (京都国立博物館) ア 平成知新館では専用LAN経由環境モニタリングシステムを構築し継続的な温湿度調査を実施している。また定期的に全館を網羅した昆虫類の生息調査、検知管による吸気環境調査を実施している。 イ 明治古都館では収蔵庫及び限定的な使用となっている展示室について温湿度調査 (通年)、昆虫類生息調査を継続した。また東収蔵庫は改修工事に着手したことから、一時的にモニタリングを中止しているが、工事の進捗状況により、温湿度調査、精密清掃、昆虫類生息調査の再開を予定している。 ウ 各施設の空調性能に応じ、季節に合わせた環境管理を実施した。外部収蔵庫 (KICK) では現地管理者との報告体制を整え、毎月打ち合わせを実施するなど連携強化を図ることができた。またKICKの緊急対応として京都建仁寺塔頭両足院収蔵品について、京博で燻蒸した作品群の一時避難場所として活用している。								
【補足事項】								
 KICKの緊急対応の京都建仁寺塔頭両足院所蔵品の収納状態								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、190件作成した。 平成知新館・明治古都館等の展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリングの実施とその調査結果から、施設整備関連部署との連携強化を図ることができ、包括的な環境管理体制の構築に繋げることができた。外部収蔵庫 (KICK) では、年間を通して温湿度のモニタリング・昆虫類生息調査等を実施し、受け入れ文化財の適切な保管管理を実施した。今後は解析結果の迅速なフィードバックを目指し、そのための体制作りが必要であると考える。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のための地震等への対策として、外部収蔵庫 (KICK) では、棚内収蔵品の落下防止対策に一部着手することができた。展示・収蔵施設の温湿度管理は、所管7ヵ所の建物内について通年モニタリングを実施しデータの蓄積を図るとともに、それらの解析結果を受けて、より適切な展示・保存環境の保持に向けて建物毎の対応策を検討することができた。今後も継続してモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを実施し、より適切な環境保持に対する調査研究に繋げていきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (奈良国立博物館) ア 展示施設及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。 イ 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 ウ 収蔵・展示施設の適正な温湿度管理の徹底を図る。									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (4館共通) ア 文化財害虫の生息状況を把握するため、館内における文化財の保管および展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し約2ヵ月に1度交換しデータの蓄積を図った。データの分析をふまえ、29年度末に一部の展示室について燻蒸を実施しI P Mを推進した。また、展示施設の周囲へ害虫忌避剤を散布し、防塵マット交換と清掃を定期的に実施し、文化財害虫の生息が危惧される古い展示ケースに防虫シートを設置するなど、展示・収蔵環境の衛生保持に努めている。 イ 保存修理指導で作製した文化財の写真添付が可能な作製フォームを用いて、112件の保存カルテを作成・保管した。 (奈良国立博物館) ア 無線LANによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置し、展示終了後にはデータの分析を行うことで今後の参考資料としている。展示室や壁ケースの温湿度測定を蓄積し、館内環境の改善に役立てた。 イ 継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月14日に実施した。また古い独立展示ケースのシール部分を交換・修理し、気密性の向上を図った。 ウ 東西新館のエアカーテンを適切に運用し、館内の温湿度負荷の低減を図った。無線LAN温湿度管理システムによる展示室温湿度の24時間リアルタイムモニタリングを進め、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。									
【補足事項】 (4館共通) ア 館内の展示室、収蔵庫や文化財保存修理所等150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2ヵ月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などI P Mの実践につなげた。 (奈良国立博物館) ア 機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。									
									
文化財害虫調査用トラップの設置の様子									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。展示ケースの気密性向上のため展示ケースの継続した修理やシール部分の交換等を進め、展示環境の向上を図った。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画は順調に進んでいる。文化財害虫の生息状況から、29年度は一部の展示室で燻蒸を実施した。30年度以降も展示・保存環境の把握に努め適宜の対応により文化財の維持・管理に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存								
【年度計画】									
(4館共通)									
ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。									
イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。									
(九州国立博物館)									
ア 館内の温湿度・空気質・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。									
イ 全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。									
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 (兼環境保全室長) 木川りか				
【実績・成果】									
(4館共通)									
ア 昆虫トラップ調査結果をもとに、徹底清掃などの方策を講じた。									
イ 収蔵品及び修理完了資料を中心に保存カルテを 102 件作成した。									
(九州国立博物館)									
ア 温度・湿度モニタリング機器を活用して展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積した。文化財害虫の発生を速やかに把握するため、粘着シートによる昆虫トラップを収蔵庫、展示室、諸室等約440ヵ所に設置し、2週間ごとに交換・観察した。この調査により、文化財害虫の進入経路等を速やかに把握でき、文化財害虫対策をより徹底して行うことができた。									
イ 夜間開館を実施するのに伴い、外構にライトを増やしたことによる文化財害虫の侵入増加が懸念されたため、夜間開館時と閉館時で捕虫トラップを設置・回収し、虫の侵入調査を行った。									
【補足事項】									
ア									
・個別に展示ケース内に温度・湿度のデータロガーを配置することで、文化財に合わせた適切な温度・湿度管理をすることができた。数多くの展示換えにおいてもデータの管理、解析によって、安全に展示することができた。 ・館内収蔵庫、展示室、諸室等に約440個の粘着トラップを設置・回収し、月ごとのモニタリング結果をもとに、速やかな防虫対策を講じることができた。またこれまで行ってきた害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持することができた。 ・これまで荷解材保管庫として使用していた部屋の空調を工事し、「一時保管・生物処理室」として使用できるようになった。このため、生物処理が必要な作品を一度に大量に処理することが可能となった。 ・地元のNPO法人 (ミュージアムIPMサポートセンター) や市民ボランティアとの連携を進めた。市民ボランティアには、展示室等一般来館者エリアでのトラップ交換、ミュージアムIPMサポートセンターには、文化財が移動する導線の周辺エリアの清浄、館内のトラップの観察など、環境保全に両者の協力を得ることができた。									
イ									
・金・土曜日における夜間開館の実施に伴い、文化財害虫の侵入状況を把握するため、館内外に捕虫トラップを7ヵ所設置してデータを蓄積している。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
殺虫殺菌処置		35件	-	-		10	9	12	58
保存カルテ作成件数		102件	-	-		94	75	91	81
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 館内の温度・湿度データを常にしっかりと計測し、年間300件以上の展示換えに合わせて、文化財の材質・状態に対し適切な展示環境を整備できた。また、荷解き材保管庫の改修工事によって、大型作品の生物処理が実施可能となり、害虫被害を未然に防ぐことができた。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 展示ケース・展示室・収蔵庫の温度・湿度をモニタリングし、適切な温度・湿度で展示・保管することができた。新たに生物処理ができる場所を確保したことにより、当館へ持ち込まれる作品を必要に応じて処理した。環境保全を進め、中期計画を順調に実施した。						



夜間開館に伴う捕虫トラップ調査の様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」および平成 28 年度より実施している国宝「埴輪 挂甲武人」の修理に継続して取り組み、 イ 引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。 ウ 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。									
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	保存修復課長 富坂賢				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 保存修復課に彫刻や工芸品など立体の修理技術者として1名の修理技術アソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の応急(対症)修理を行なった。作品の劣化予防のために380件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから69件の本格修理を行った。 イ 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む305件の作品に関して修理仕様の検討を行ない、中長期修理計画策定を進めた。 ウ データベース構築のために、28年度に修理が完了した47件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XVIII』を刊行した。									
【補足事項】 ・ 国宝「医心方」（平安～江戸時代）は独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を継続した。 ・ 国宝「埴輪 挂甲の武人」（土製 古墳時代・6世紀 群馬県太田市飯塚町出土）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を継続した（29年3月着工、工期28カ月）。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	25	26	27	28
修理件数（本格修理）		69件	－	－		93	77	86	68
修理のデータベース化件数		47件	－	－		84	86	90	61
【年度計画に対する総合評価】 評価：A			【判定根拠、課題と対応】 緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施し、厳しい経済的事情の中で、寄附金の活用等により、国宝3件、重要文化財3件を含む修理を実施し、当初の予定を上回る内容の成果をあげた。また、関係資料のデータベース化も進めた。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。今後の希望としては、常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。 特に重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理に継続して取り組む。 イ 引き続き収蔵品の中長期的修理計画の策定を検討する。 ウ 収蔵品修理資料のデータベース化を図る。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一 保存修理指導室長 大原嘉豊					
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・重要文化財「熊野懷紙」の附属品の応急修理を行い、劣化の予防に努めた。 ・28年度より4ヵ年計画の2年目となる重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理を継続して行った。 ・重要文化財「維摩居士像」、「仏涅槃図」の修理を完了し、その修理工程を4K映像で撮影した。 イ 収蔵品の中長期的修理計画の策定の検討を行った。 ウ ・29年度は180件の新規修理文化財搬入がありデータベース化を行うとともに、過去のデータに関して1,870回追加、更新を行った。 ・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化に着手し、29年度は325件の修理記録のPDF化を行った。								
【補足事項】 ア 緊急性の高い作品を優先に、11件の本格修理を行った。(絵画7件、書跡1件、漆工1件、染織2件)								
 								
重要文化財「大手鑑（八十葉）」修理風景								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
修理件数（本格修理）	11件	-	-		15	11	12	14
修理のデータベース化件数	180件	-	-		101	113	113	151
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度も多分野にわたり、緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を行うことができた。また、重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理についても順調に継続修理がなされている。 データベース化件数は29件増と、前年度を上回る成果を上げた。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度も多分野にわたり、緊急度の高い作品から順に修理を行い、順調に成果を上げることができた。伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、28年度から継続して修理記録に映像を含めた対策を講じている。 29年度は文化財保護基金での修理が決定され、1件修理に着手したが、今後についても修理対象の拡充、ならびに修理件数の増加に努めたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画・書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「絹本着色親鸞聖人像」等の修理に取り組む。 イ 引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ 修理資料のデータベース化を図る。 エ 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア ・館蔵品本格修理6件のうち、新規3件、27年度からの継続事業1件、28年度からの継続事業2件を実施した。 内訳 絵画3件（うち重要文化財 絹本着色親鸞聖人像は2ヵ年継続事業の初年度） 書跡1件（うち重要文化財 法華経（色紙経）は3ヵ年継続事業の最終年度で修理完了） 工芸1件 考古1件 ・年度内に4件が完了。 イ 22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施している。 ウ 新たに『文化財保存修理所修理報告』の刊行を進め、「文化財保存修理所 修理一覧」掲載のため、修理報告資料の整理を進めデータベース化に努めた。 エ 寄託所蔵者と協議を行い、寄託品2件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア ・収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に、特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に新規で設置した。 ・寄託品修理は、朝日新聞文化財団の助成による京都・現光寺所蔵 絹本着色最勝曼荼羅の1件について新規着工した。住友財団の助成による京都・聖護院所蔵 絹本着色役行者八大童子像は28年度から2ヵ年継続で修理を行っている。上記の京都・現光寺所蔵 絹本着色最勝曼荼羅は29年度末に修理が完了した。京都・聖護院所蔵 絹本着色役行者八大童子像は30年度末に修理完了の予定。								
								
募金箱の設置								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年 変化	25	26	27	28
修理件数（本格修理）	6件	—	—		8	9	11	7
修理のデータベース化件数	69件	—	—		73	77	66	62
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 27年度から継続事業による法華経は当初計画通り修理が完了し、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 財団助成や募金等を活用し、継続的に国指定品や緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。中期計画は順調に進んでいる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信															
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積															
【年度計画】 (九州国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「東大寺等関係文書」等の修理に継続して取り組む。																
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長(兼環境保全室長) 木川りか											
【実績・成果】 (九州国立博物館) ア ・館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財42件(本格19件, 応急23件)の修理を実施した。 ・当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品、九州所在の地方公共団体・社寺等所蔵品の保存状態調査を行うことができたため、効率的な調査の実施と現実的な修理計画の策定、適切な処置へと繋げることができた。																
【補足事項】 ・館費による修理件数42件(本格19件, 応急23件)の内訳： 絵画9件(本格3件, 応急6件)、書跡4件(本格3件, 応急1件)、彫刻15件(本格1件, 応急14件)、染織7件(本格7件)、考古4件(本格2件, 応急2件)、歴史資料3件(本格3件) ・除去が大変難しい豆糊(28年度に科学調査で確認)の使用が推定されている重要文化財「東大寺等関係文書」(平安時代、当館所蔵)について、当館文化財保存修復施設で修理が実施されたことにより、進行状況の頻繁な確認と協議を行うことができ、2ヵ年の修理事業も無事完了した。 ・修復施設で修理中である豆糊が使用された書跡作品の「大方広仏華嚴経卷第十五」(平安時代、当館所蔵)と「重要文化財 高麗版大般若経」(朝鮮・高麗時代、長松寺所蔵)の分析調査を行った。					 重要文化財「東大寺等関係文書」の修理後											
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年 変化	25	26	27	28								
修理件数(本格修理)	19件	-	-		17	23	22	18								
修理のデータベース化件数	-	-	-		-	-	-	-								
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】														
評定：B		当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て保存状態調査を行い、重要文化財「東大寺等関係文書」を含む19件の本格修理を計画的に実施することができた。また修理中の豆糊使用文化財の分析調査を行った。今後はアジア各地での類例の調査研究が必要と考えている。														
【中期計画記載事項】																
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。																
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】														
評定：B		中期計画に沿って、機構内外の研究員や修復技術者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。調査研究設備については、保守を行い、正確で安定したデータを取得できるよう備えることができた。														

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影、などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 富坂賢			
【実績・成果】 (4館共通) ア 修理前作品 TB-1171 国宝「与虎丘紹隆印可状」からの検体（本紙、補紙）など13件の紙質検査を行って修理方針を決めた。 イ ・TC-485「天部像頭部」、J-36697 国宝「埴輪 挂甲の武人」、A-9880「アイヌ風俗図」など885件（2,257箇所）の蛍光X線分析による材質の調査を行い材質調査、修理方針の決定などに寄与した。A-1 国宝「普賢菩薩像」、国宝「千手観音坐像」（葛井寺）など14作品107回のX線撮影を行い技法の調査、鉛入り下軸の確認調査などを行った。また、J-21428, 21429「埴輪 踊る人々」はX線画像を用いて国内輸送前に輸送方法の検討を行い安全な輸送方法を選択した。三次元蛍光分光分析はA-8602-18「大小暦類聚」など3作品24回の測定を行い画材の分析を行った。また、可視分光分析はA-10569-2864「瀬川菊之丞の正宗娘おれん」の8ヵ所を測定し、彩色材料の発色データ取得と調査を行った。 ・文化庁が進める国宝・重要文化財新指定調査において書跡2作品（14ヵ所30回測定）の蛍光X線分析を行い材質の調査を行った。								
【補足事項】 イ 特別展「運慶」では瀧山寺所蔵「聖観音立像」などのX線撮影を行い調査、展示活動に寄与した。所蔵品以外のX線撮影は3作品113回の撮影を行った。また、高野山金剛峰寺八大童子などでは表面彩色部（12ヵ所、26回測定）の蛍光X線分析を実施し材質調査をした。								
								
「埴輪 踊る人々」のX線撮影								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 館内の作品の研究調査や修理前調査だけではなく、国内外様々な文化財に対する研究にも寄与し、成果を上げている。当館の装置ではX線の出力や撮影範囲で対応できない文化財もあり、今後は装置の改良を行いより多くの作品の撮影に寄与できるようにする。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 現在保有している機器による撮影や調査分析、機構の保存科学研究員と共同した調査研究、機構内外の修復技術担当者と連携した修理は目標水準を達しているものとする。今後は、捉え切れていない「材質特定」を行える測定機器を計画的に導入し、機構内外の他分野の職員と連携して解析精度を上げていくことが必要である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理										
【年度計画】 (東京国立博物館) ア X線CTスキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を引き続き検討する。											
担当部課	学芸研究部保存修復課				事業責任者	課長 富坂賢					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア ・大型垂直X線CTスキャナではC-15「十二神将辰神」など72件(列品12件、特別展開連37件、外部依頼23件、116回撮影)。大型水平X線CTスキャナではJ-8035「単鳳環頭大刀」など8件(列品3件、特別展開連3件、外部依頼2件、8回撮影)。微小部X線CTスキャナではJ-38304重要文化財「遮光器土偶」など39件(列品10件、寄託品2件、特別展開連1件、外部依頼17件、陸前高田市博9件、97回撮影)の撮影を行い、修理前、修理中の状態調査ほか、製作技法などの調査研究を行った。 ・特別展開連では安全な移動梱包作業に向けて輸送業者とCT画像を見ながら固定する場所の確認を行った後に輸送梱包を行い、無事に作品を返却した。 ・東京文化財研究所無形遺産部と連携して、製作者が高齢で後継者がいない三味線部品の形状を次世代に伝えるための調査をX線CTスキャナと光学3次元計測を行い、次世代へつなぐデータの収集を行った。											
【補足事項】 ア ・外部からの依頼は国立歴史民俗博物館、陸前高田市博物館、相模原市立博物館などの博物館に加え、国際基督教大学や興福寺など寺社の所蔵品や研究サンプルのX線CT調査を行った。X線CT撮影データは共有サーバー、ハードディスク、LTOに保管し、活用と長期保存に備えた。 ・特別展「運慶」の展示パネル、東京文化財研究所発行のドレスデン国立美術館陶磁器資料館所蔵の日本美術共同研究事業報告書、岩手県住田町 光勝寺 阿弥陀如来像 修理報告書、国際基督教大学所蔵の国産初ジェットエンジン調査報告書などに調査画像の提供を行った。 ・特別展「運慶」において興福寺南円堂四天王像はX線CT画像を用いて返却輸送前に輸送方法の再検討を行った。 ・文化庁が進める国宝・重要文化財新指定調査において彫刻分野4作品のX線CTを行い画像の提供と調査に協力した。											
【定量的評価】項目		29年度実績		目標値		評定	経年変化	25	26	27	28
-		-		-		-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 調査件数と国内様々の他機関との連携にも多く活用できたことは大いに評価できると考える。今年度は特別展開連のX線CT撮影調査に割く時間が多くなった分、所蔵品の修理事業や調査研究としての活用は比率として低くなった。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。											
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 撮影調査件数は作品の安全を第一に考えた運用から考えると順調である。しかし、今年度は特別展開連の撮影調査に多くの時間を割かれたため、収蔵品の調査や中長期的な修理計画に向けた撮影件数の伸びは鈍った。今後は特別展、通常業務での調査をバランスよく行っていく必要がある。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (京都国立博物館) ア 電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、X線CTスキャナー等を用いて作品の調査研究や修理に活用する。									
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 宮川禎一 保存科学室長 降幡順子				
【実績・成果】 (4館共通) ア 29年度修理開始の館蔵品の紙本文化財について、材料の分析を行った。具体的には、「湖西図 池大雅筆」の材質を分析した結果、竹紙であることが判明し、材質が判明したことで修理方針の決定に役立てることが出来た。 イ 寄託品の修理に際し、X線調査を行い、文化財の材質が判明したことで修理指針に役立てることが出来た。 (京都国立博物館) ア ・研究職員の研究活動の一環として、展示前状態調査や文化財修理所各工房からの修理前・後調査依頼を受け入れ、透過X線撮影、X線CT撮影、顕微鏡観察、蛍光X線分析等の共同調査を実施した。 ・開館120周年記念特別展覧会「国宝」において借用・展示をした四天王寺所蔵「懸守（木製絹貼）」4点についてX線CT撮影を実施した結果、華麗な錦に覆われた懸守内部の構造を明らかにすることができた。特に金具文様が桜折枝である懸守は、桜花形に削った木材部分の木取りや接合箇所、納入品に関する多くの知見を得ることができた。また納入品についてはCTデータを用いて3Dプリンタで造形するなど情報公開にも役立てることができた。 ・共同調査、保存修理に係る調査等による蛍光X線分析では、金属組成、顔料調査、胎土分析調査が主としたものであった。特に外部からの依頼で実施した滋賀県美術工芸品調査や京都御所床材塗装調査ではモバイル型分析装置(蛍光X線装置・フーリエ変換分光分析装置等)による非破壊分析を実施することができ、文化財の科学調査に貢献することができた。									
【補足事項】 (京都国立博物館) ア ・文化財保存修理及び展示に関わる調査：X線CT撮影5件(15点)、蛍光X線分析調査10件(30点)、高倍率顕微鏡観察2件(2点)、透過X線撮影7件(7点)、可視赤外分光分析2件(28点) ・共同調査に係る調査等：X線CT撮影2件(6点)、蛍光X線分析(携帯型装置含む)10件(207点)、フーリエ変換赤外分光分析(ATR)1件(13点) ・国宝「懸守」(四天王寺蔵)の新発見については、記者発表を行い、新聞やニュースにも取り上げられた。					 共同調査の様子				
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 29年度は従来から実施している展示前状態調査や文化財修理所各工房からの修理前・後調査依頼を受け入れ、透過X線撮影、X線CT撮像、顕微鏡観察、蛍光X線分析等の共同調査をおこなった。修理前調査では、文化財の構造調査、材料調査を実施し多くの情報を修復技術担当者と共有することができた。30年度は、非破壊分析法ではあるが、装置の特性を生かし、より詳細な情報を得ることができるよう各装置の最適な測定法の確立を目指したい。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画における、「有形文化財の修理」、「科学的な技術を取り入れた修理」に関連する調査研究として順調に実施することができた。29年度は、修理に際しての調査では修復技術担当者等と連携を図り調査分析を実施することができた。調査研究については展示活用に生かす機会が少なかったことから、30年度調査では、より迅速な情報公開として展示活用も実施していきたいと考えている。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館) ア 木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
担当部課	学芸部		事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (4館共通) ア 当館文化財保存修理所内で紙文化財の修理を行っている文化財保存と共同で修理文化財の調査を行い、修理方針の検討資料とした。 イ 館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施した。 ・絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。(実施計10回) ・修理方針に反映させるため、書跡や工芸作品の蛍光X線分析を実施した。(実施計2回) ・工芸や彫刻作品の修理について、内部構造を調査するためX線CTを実施した。(実施計3回) (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、28年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った。同定結果は修理に活用している。(実施計3件) イ 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料の修理に際し、X線撮影等による構造調査などを行い、製作技術の解明や修理方針の検討資料とした。(実施計2回)								
【補足事項】 (4館共通) イ 当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。								
								
新規に導入したX線CT装置								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 彫刻作品の修理中にX線透過撮影やX線CTを実施し、適切な修理に役立てるとともに、修理の基礎資料とした。このほか28年度に引き続き京都大学と連携して樹種同定調査を行うなど、15を超える回数を随時実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 継続的に京都大学生存圏研究所とも連携しながら、保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえて計画的な修理を実施した。29年度に新たに導入したX線CT装置を構造調査や修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (九州国立博物館) ア 修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本として各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。	
担当部課	学芸部博物館科学課
事業責任者	課長（兼環境保全室長） 木川りか
【実績・成果】 (4館共通) ア 28年度に引き続き、重要文化財「対馬宗家関係資料」（当館所蔵）等の紙本文化財の繊維同定を行い、文化財ごとに適切な補修紙を作成した。 イ 「大方広仏華嚴経巻第十五」（当館所蔵）と重要文化財「高麗版大般若経」（長松寺所蔵）の紙継に用いられた黄褐色の糊の実体顕微鏡観察を行い、豆糊が使用されている可能性を指摘した。 (九州国立博物館) ア ・「安南国副都堂福義侯阮肅書」（当館所蔵）の紙に漉き込まれた白色粒子について、各種顕微鏡観察、蛍光X線分析、ラマン分光分析を行い、貝殻胡粉（鉱物としては方解石）が使用されていることが判明した。 ・国宝「婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用）のうち書棚」（徳川美術館所蔵）のX線CT及びX線透過撮影による構造調査を行い、柱に特異な構造があることが判明した。	
【補足事項】 ・修復施設1・2・4では、国宝修理装演師連盟が館費修理品7件のほか、重要文化財「細川家舟屋形天井画」（永青文庫所蔵）など、合計10件の修理を実施した。 ・修復施設3では、修理工房宰匠が館費修理品14件のほか、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類（那覇市所蔵）など、合計35件の修理を実施した。 ・修復施設4では、美術院が館費修理品15件（現地修理も含む）のほか、福岡県指定文化財「如意輪観音坐像」（福岡・大興善寺所蔵）など、合計23件の修理を実施した。 ・修復施設5では、芸匠が館費修理品3件のほか、重要文化財「吉野ヶ里遺跡出土ガラス玉」（文化庁所蔵）など 合計5件の修理を実施した。 ・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが国宝「婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用）のうち書棚」（徳川美術館所蔵）など、合計2件の修理を実施した。 ・当館所蔵の「山水図」を奈良国立博物館文化財保存修理所で株式会社文化財保存が修理した。また、当館所蔵の「前田家伝来名物裂帖」を京都国立博物館文化財保存修理所で株式会社岡墨光堂が修理した。	
	
「賦何路連歌」（当館所蔵）の修理監督の様子	
【定量的評価】 項目	29年度実績
	目標値
	評価
	経年変化
-	-
	25
	26
	27
	28
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	
【判定根拠、課題と対応】 当館修復施設を九州等所在文化財61件の修理に活用した他、伝統的な紙や接着剤の分析調査を行い、修理方針を検討するなど、伝統的な修理技術に科学的な保存技術を取り入れた修理を実施することができた。	
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究所と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	
【判定根拠、課題と対応】 修復施設を使用する5社と当館研究員が連携して当館所蔵品の状態調査を行い、適切な修理計画を策定した。当館以外の九州所在文化財については、所蔵者や所蔵者の属する教育委員会等とも連携しながら修理計画を策定した。 修理中には紙繊維の同定や混和物、接着剤の分析等科学調査も随時行い、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営								
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (京都国立博物館) ア 文化財保存修理所の設備等の改修について引き続き国と協力して検討を行う。 イ 文化財保存修理所及び仮工房等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 数馬厚人 保存修理指導室長 大原嘉豊						
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催した。 (京都国立博物館) ア 文化財保存修理所運営委員会を開催し、燻蒸庫の改修計画及び仮工房の運用について審議した。 イ 28年度に実施した文化財保存修理所燻蒸庫の老朽破損した缶体撤去に続いて、新設工事の設計及び施工が完了した。									
【補足事項】  新設された燻蒸庫缶体  新設された燻蒸設備機器									
【定量的評価】	項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
	-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所運営委員会及び修理者協議会を予定通り開催した。 文化財保存修理所において、文化財の適切な保存修理環境を維持するための燻蒸設備の設計と更新工事が完了した。							
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国や工房と協力しながら、文化財保存修理所の整備を進めており、28年度から引き続き実施していた燻蒸設備更新工事が完了した。 今後も中期計画の達成に向けて引き続き、整備・充実を進めていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営							
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所のブラインドが故障し局所的に結露等が生じていたため、点検と部品交換を実施した。 (奈良国立博物館) ア ・文化財保存修理所運営委員会を5月18日に開催し、修理所の円滑な運用に努めた。修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者と当館学芸部で文化財保存修理所協議会を開催(1回目は8月31日に、2回目は30年2月27日に開催)。各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を3回実施した。								
【補足事項】 ・12月26日から30年1月14日まで、当館西新館北第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、28年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示(7件)することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 ・30年1月25日に文化財保存修理所一般公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。								
修理展の様子 								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度も継続的に文化財保存修理所運営委員会及び修理所内3工房代表者との文化財保存修理所協議会を開催し、修理の実施状況を確認するとともに施設の保存環境改善について協議した。関係者間で連携し情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。30年度も継続して円滑運用に努める。また、修理文化財に関する特別陳列や、文化財保存修理所の一般公開を実施し、同所での取り組みについて理解促進を図ることができた。						
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用や文化財被災時に修理技術者と連携できるように意見交換を行った。その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修復施設等の運営							
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (九州国立博物館) ア 文化財保存修復施設及び調査分析室を運営し、文化財の保存修理に積極的に活用する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長(兼環境保全室長) 木川りか					
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・文化財保存修復施設1の紙干棚について、修復技術者の使いやすさやバックヤードツアー見学者の視界を妨げることがないように、天井を利用した可動式のものを計画し、設計した。工事は30年度早期に実施したい。 (九州国立博物館) ア ・保存修復施設にて当館経費による修理42件及び所有者負担による修理36件、合計78件の修理事業を実施することができた。 ・保存修復諸室を活用し当館所蔵品及び寄託・借用品等39件の構造調査を行い、その結果を保存管理に役立てた。								
【補足事項】 文化財保存修復施設1の紙干棚については、近年、大量の書跡や歴史資料の修理案件が増加しており、それに伴い使用する補修紙や修理に用いる吸取紙の乾燥場所の確保が大きな課題となっていた。29年度、設置場所を検討したところ、文化財保存修復施設1の天井から紙干棚を吊り下げる方式であれば、作業時は人の背の高さまで降ろし、乾燥中は天井の高さまで上げることにより、修復技術者と見学者の双方にとって利便性が高まると判断した。予算や工期を勘案し、30年度以降に施工を実施する予定である。								
								
文化財保存修復施設2での修理風景								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 修復技術者と見学者の利便性を考えた施設内の機器配置を検討することができた。 修理事業や分析調査事業については、当館所蔵品だけでなく、九州所在の教育委員会・社寺等所蔵品に対しても実施しており、九州の文化財修理・調査の拠点として活動することができた。						
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対し順調に成果をあげることができた。日常的に温湿度や文化財害虫等の管理を行い、安全な施設、環境で修理や調査を実施することができた。						